

# 高齢者におけるPD Part ~ 導入時指導のポイント ~

PD 導入時の看護に焦点をあて、特に高齢者の特徴を踏まえた指導時の留意点についてまとめました。

## 高齢者の特徴

### 身体的特徴

#### 【感覚機能の低下】

〔視覚〕60歳代の約70%、70歳代の約90%に老人性白内障がみられ、視力低下とともに、コントラストの見分けがつきにくくなる。

〔聴覚〕老人性難聴では高音域の聴力から低下する。中耳・内耳機能の低下に加え、音を分析・理解する大脳の働きも衰える。そのため、音は聞こえるのに話の内容の聞き分けが困難になる。

〔触覚〕皮膚感覚の衰え

#### 【運動機能の低下】

手指屈曲・握力の低下、動作緩慢、細かい作業能力低下、身体バランス感覚低下

#### 【その他機能低下】

伝達速度の低下、記憶力の低下、生理機能の低下

### 精神的特徴

不安（孤独感）無気力（気力の衰え）依存、自尊心の低下（ひがみ・愚痴・自信の低下）悲観的、情緒の変化、生きる目的の喪失

### 社会的特徴

家庭内での役割の喪失・変化、社会との接点が減少・孤立、経済力の低下、余暇時間の拡大、生きがいの喪失、生活圏の縮小



## 導入指導時の留意点

### 精神的特徴を踏まえた対応

#### 【傾聴と受容】

透析導入に伴って起こる悲しみや怒りといった感情を、患者様が十分に表現できることで、『受容への過程』に進みやすくなります。

患者様が元気だった頃、活躍していた頃の話に聴き入ることは、弱者となったと感じている患者様の『自尊感情や意欲を高める』効果があります。

患者様の“つまらなさ”や“あじけなさ”といった平板な感情も、グチなどとして十分に話すことで発散され、『活気を取り戻す』ことにつながります。

#### 【分析よりも具体的な指導】

患者様の性格を分析し、ゆがみを指摘したり、状況を自分の力で変えていくようアドバイスするよりも『改善のためのより具体的な方法を提示したり、指導する方が効果的』です。

#### 【本来もっている能力を引き出す】

- 高齢者自身の持つ残存能力や経験が見直されてきています。それらを十分に引き出せるような機会の提供や関わりが指導効果を高めるといわれています。
- 同年代、もしくは年上のPD患者さんが元気にしている姿を見たり、話を聞いたりすることで、「自分もやれる」「私より年上の方がやっているのに負けられない」などの意欲がかきたてられます。
- 簡単でよいので具体的な目標を設定し、達成することで自信や満足感につながり、更なる意欲に結び付きます。

## 手技指導時の工夫・配慮

### 【バッグ交換】

心身機能の低下から、バッグ交換は無理だと患者本人も医療者側も考えているケースがよくあります。お年よりは手技を覚えるのに時間がかかって当たり前ですので、数回の指導で「あの患者さんは無理」などとレッテルを貼らず、繰り返し指導することが大切です。またできるだけ自分の力でいえるような環境作りを心掛けましょう。

言葉が聞き取りやすいよう、指導はできるだけ静かな場所で行いましょう。対面した状態でハッキリとメリハリのある話し方を心掛けましょう。

医療用具の名称や医学的な事に関する説明は、患者様の理解し易い言葉で表現しましょう。

バッグ交換では、握る・捻るなど握力や指先の力の微調整を要する操作があります。困難なケースでは補助具の利用やシステム変更も検討しましょう。

各種測定器機（秤、体重計、血圧計、体温計 etc.）や記録用紙など、身体状態に応じた選択・工夫をしましょう。大きな文字のものを選択するとともに、色のコントラストがハッキリしていることも重要なポイントです。

主治医と相談し、測定と記録項目を必要最低限に絞ったり、記入欄を大きくした専用記録用紙を作成したりしましょう。

入院中と退院後では、バッグ交換の環境が変化します。退院後に環境の変化に戸惑わず、スムーズに在宅療養に移行するために、透析液や器材類の配置など、入院中の練習環境を可能な限り自宅の状況に近づける努力をしましょう。

### 【出口部ケア】

出口部管理はバッグ交換と同様に精神的負担はもちろん、視力低下や手指の細かな作業能力が低下傾向にある高齢者では、出口部の十分な観察やケアが困難な場合があります。

自分でケアができない場合は家族に補ってもらいましょう。ドレッシングフィルム材を用いてケアの負担軽減を図る方法<sup>1)</sup>もあります。

### 【家族関係】

家族は、患者本人への責任と負担との間で葛藤していたり、それまでの家族関係の中での愛憎問題を引きずっていたりする場合もあります。

医療者側は、苦勞をねぎらう、家族の非を責めない、多くを要求しない、こちらの価値観を押し付けない、その家族なりのあり方を尊重する...といった中立的で理解ある立場で臨み、家族と患者の現実的な妥協点を探します。この様な態度が、心身ともに疲労している家族を精神的に支えたり、頑なになっている家族の心を開いたりするきっかけになる場合があります。

### 【参考・引用文献】

- 1) CAPDの知恵袋『ドレッシングフィルムを用いた出口部ケア』：メディカ出版：透析ケア 1999, Vol.5, No.6
- 2) 前田貞亮, 大平整爾, 三木隆己：高齢者の透析 導入からフォローアップまで：77-94, 株式会社日本メディカルセンター, 1995
- 3) 成田善弘：高齢者透析の身体的特徴と透析ケア：メディカ出版：透析ケア 1995, Vol.1, No.4
- 4) 老年看護学：医学書院
- 5) 高齢透析患者のケアのポイント：メディカ出版：透析ケア 1999, 冬季増刊号
- 6) 透析看護技術のコツ：透析ケア 2002, 夏季増刊号
- 7) キャブディール通信, Vol.23, テルモ株式会社 2002